

ターネットやスマホなど僕たちが学生時代では考えられないことでした。ただ、昔からある紙の印刷に関しても最近思うことがたくさんあります。

ふれあい歯科ごとうでも初診の時に各種資料や記載物がありますが、もちろん診療室でコピーをしているものです。いつでも必要数確保できるのでこれはこれでメリットがあります。先日、あるチラシを印刷所に出す機会がありました。1000枚という大量印刷でしたが、びっくりするような安さ。こちらが商売として大丈夫なのか心配してしまうほどでした。

僕自身、デジタル機器も使いますが、紙媒体はなくならない派です。どんなにスマホやタブレットが発展しても本や新聞は残るでしょう（細々と）。初めて本を出した時、装丁家と

いう職業を初めて知りました。表紙のデザインや紙質、書体や文字の大きさなどをその本に合わせて作っていく方でした。デジタルになっつまうとその良さが全く出ません。

今、文化の過渡期かもしれませんが、紙の文化は残していきたいですね。

### 医療者の良心

先日、有名な薬剤師さんの話を聞く機会がありました。高齢者が服用する薬は5種類が限度だそうです。

それ以上服用されている方なんていっぱいいますよね。その方に必要な薬はありますが、多すぎる弊害は少なくありません。これはどうして起こるのかと考えると「薬を出せば儲



かる人」がいるせい입니다。最近ではそこに薬剤師さんが介入して減らすこともできるようです。「ふくん」と聞きながらハッと思いました。全く他人ごとではありませんでした。「歯を削ればもうかる人」がいるんです。

薬と一緒にです。削られすぎな方を多く見ます。もちろん削られた後ですから本当に必要だったかどうかの判定はできません。でも、こちらもプロですから「おそらく必要なかっただろう」と思うことは多々あります。どうやって防げばいいのか。医療者の良心ですよ。それだけは肝に銘じて診療しようと思います。